トップページ

ご挨拶

私の前職である消防士は、ひとつとして同じ現場はありませんでした。

常に最悪の状況を考え、何よりも「安全」、「確実」、「迅速」に活動を行い、災害を終息させてきました。

　政治も同じであり、このような時であるからこそ、迅速に行動、対応していくことが大切であると思います。

　’’困っている人がいれば、そこに手を差し伸べる。’’

これが「政治」というものではないでしょうか。

　 私たちもできることをしっかりと確実に行っていくことが大切です。

「いま」だからこそ、未来の大分市を一緒に考えていきませんか。

未来の子どもたちのために。

**進　よしかず**

プロフィール

佐賀県で生まれ、柞原神社の大分市上八幡で育ち、八幡幼稚園、いとこの兄の影響を受け、大分大学教育学部附属小、中学校へ入学。その後、大分県の合同選抜により大分県立大分東高等学校へ入学し、ハンドボールに打ち込む。最高位は大分県高等学校総合体育大会にて準優勝。生徒会においても書記長を務める。その後「何か人のために役に立つことをしたい！」との思いから大分市消防局へ入局。その後、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、大分市の姫岳での山火事、大規模工場火災、多数傷病者事故、台風による自然災害等を経験し、本年３月、３２年間奉職した大分市消防局を退職する。

仕事も一生懸命、遊びも一生懸命。小学生の頃聞いた、ファンクバンドの影響を受け、洋楽にはまり、レコードの所有は６０００枚ほど。趣味で始めたスキーもインストラクターの資格までの腕前。大分県内では資格を数名しか持たないA級検定員資格も修得。

現在は、会社員をしながら新型コロナウイルスによる対策支援のため、日々、人のために汗をかいている。

昭和４４年４月２日生まれ。現在、５１歳。妻と娘（長男は東京で大学院生）と暮らしている。

座右の銘　　有言実行　ありがとうの気持ちと感謝のこころ

趣　　味　　スキー・音楽鑑賞

あゆみ

昭和４４年４月２日　　父親の転勤先である佐賀県にて産声をあげる

昭和４８年　　　　　　父親の転職により母親の実家大分市へ。大分市民となる。

昭和５０年　　　　　　大分市立八幡幼稚園へ入園する。

昭和５１年　　　　　　従兄弟の兄を追いかけ、大分大学教育学部附属小学校へ入学する。

昭和５１年　　　　　　当時公設水道がなく、水で苦労した上八幡地区へ公設水道敷設へのお願いを当時の故佐藤益美大分市長へ手紙を書く。

昭和５３年　　　　　　大分市上八幡地区公設水道敷設が完了する。政治の偉大さを知る。

昭和５７年　　　　　　大分大学教育学部附属小学校を卒業する。

昭和５７年　　　　　　大分大学教育学部附属中学校へ入学する。往復約１時間半の坂道を毎

日自転車で通う。生徒会役員や体育祭で応援団長を務める。

昭和６０年　　　　　　四校（上野・舞鶴・鶴崎・東）合同選抜により、大分県立大分東高等

学校へ入学する。ハンドボールに打ち込み、大分県高等学校総合体育大

会にて準優勝する。生徒会で役員を務める。この頃から政治家は無理

でも、何か人の役に立つ仕事をしたいと考え始める。

昭和６３年　　 大分県立大分東高等学校卒業

昭和６３年　　　　　　大分市消防局へ入局する。大分県消防学校初任科にて１６人の県内の

消防本部の同期たちと半年間、座学や壮絶な消防訓練を行う。

昭和６３年１０月〜　　消防局本部、各消防署にて救助（レスキュー）隊、消防隊、救急隊、火災調査事務、消防団事務、予防査察、消防用設備設置指導、違反処理、通信指令（１１９番）等の担当を歴任する。

　　　　　　　　　　　阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、大分市の姫岳での山火事、大規模工場火災、多数傷病者事故、台風による自然災害等を経験

平成２２年　　　　　　総務省消防庁消防大学校専科教育へ入学し、全国の消防の仲間たちと東京都三鷹にて共同生活を送る。同期のおかげで首席にて卒業する。

平成２３年　　　　　　消防局本部警防課で大規模、広域的な災害における消防力整備を行う。また東日本大震災発災時、大分県緊急消防援助隊の後方支援本部にて活動を行う。自然災害の脅威を改めて思い知らされる。

平成２７年　　　　　　消防局本部総務課で地域防災の要である消防団の処遇改善や組織環

境整備を行う。この頃、子供の頃の思いもあり、「もっと人に役に立つ

ことをしたい。」と再度、政治の道を目指すことを考え始める。

平成２８年　　　　　　熊本地震において、大分県庁へ大分市消防局リエゾンとして派遣され

る。消防、警察、自衛隊との連携の大切さを改めて感じた。

令和２年３月３１日　　３２年間奉職した大分市消防局を退職し、政治を志す。

令和2年4月〜　　　　会社員勤めをしながら政治活動を開始する。

私の原点

なぜ、政治を志そうと思ったのか？

 私が小学校２年生頃のお話しです。

　私の地域は、水に恵まれていませんでした。当時、地区には公設水道はなく簡易水道に頼っていました。

　私の家の簡易水道は、常に出ているわけではなく、よく断水していました。

　私の祖母と母は、断水のたびに水を手洗い所（通称 ふねのかわ）から大きなバケツに水を

満載し天秤棒を担いで約３００mの険しい山道を登り下りし、水を家に運んでくれていまし

た。

この頃よく、祖母と母が、腰が痛い痛いと言っていたのを覚えています。

　そんな苦労した中、当時の 故 佐藤益美 大分市長が、私の住んでいる地域へ公設水道を引

いてくださることになったのです。

　その時子どもながらに「市長さんってすごい人なんだなあ。いつか市長さんみたいになりた

い。」という思いを抱きました。

　このようなことがあり、「何かひとのためになる仕事をしたい！」

と思い、政治を志すこととしました。

　子どもの頃の ”ありがとうの気持ちと感謝のこころ”を忘れずに。

政策理念

I 防災対策を含めた「安全安心な大分市」を目指します。

・新型コロナウイルス対策については、これまでの対応以上に迅速かつ的確に対応していきま

す。

・「いざ！」というとき、協力し合える地域を目指します。

・南海トラフ地震対応における防災・消防・救急・救助・地域を守る消防団の強化を目指しま

す。

・犯罪が起こらない、起こさせない防犯体制の強化を目指します。

・子どもたちが防災に関して学ぶ防災館の設置を目指します。

Ⅱ 誰もが「安心して暮らしていける大分市」を目指します。

・子育に関し苦労されている皆さん、そして障がい者の皆さんに、もっと社会が優しく、包括的支援ができる体制を目指します。

・ICT（情報通信技術）を駆使し、市民が気軽に運動できる環境の整備を目指します。

・就労機会の拡大を図り、若者たちが大分市に住み、結婚、そして家族を作れる仕組みの整備

を目指します。

・高齢者の足として、病院や買い物へ行く交通手段について、充実を目指します。

・保育士さんたちの職場環境の改善に務め、現場復帰しやすい環境を整え、保育士不足の解消

を目指します。

Ⅲ 若者たちが中心となり「活気に満ちあふれる大分市」を目指します。

・中心市街地等の広場を活用し、若者たちが中心となり、子どもから高齢者までみんなが楽し

めるイベント等の開催を推進し、賑わいあふれるまちを目指します。

・大学生・短大生等の皆さんを中心市街地に呼び寄せ、まちづくりの原動力とします。

 ・新型コロナウイルス被害による街の静けさから、活気を取り戻します。

進　よしかず　後援会

私たちと一緒に新しい未来の大分市を創りませんか？

　これからは、ますます少子高齢化が加速し、若い人の活躍が重要となります。そのためにも

私たちと一緒にこれからの大分市を考えていきませんか？

　また、これまで大分市を作って来られてきた先輩方、これまでの経験を基に私たちにアドバ

イスをください。

　ぜひ、「進 よしかず」後援会へご入会ください。

　一緒に目指しましょう！

　安全で元気な大分市を！未来の子どもたちのために！

進　よしかず　後援会役員

　　後援会への入会金、年会費はございません。恐れ入りますが、下記へ必要事項の入力をし、最後に同意していただき「送信」ボタンをお願いいたします。